幼兒にきかせるお話

お茶の水幼稚園

猫のお見舞

猫の玉子さんは可愛いらしいお嬢さんでございます。眼がくるくるとして、まつしろな毛で。お友だちが澤山に居ります。大きな犬さんも、小さな犬さんも、お庭の木にくさりでつないであるお猿さんも、みんな仲のいゝお友だけでございます。

そのうちどうしたのか玉子さんは御病氣になつてしまひました。遊ぶのもいやだし、御馳走も食べられないし、小さな箱の中で赤いおふとんをしいてねて居りました。そこで日頃の仲のいゝお友だちが心配して、どんな樣子だかお見舞に行きませう、私はかうしてくさりでつないで、あるから一寸行かれませんからあなた達で行つて見て下さいとお猿さんがいふものですから、大きな犬と、小さな犬とがいよ〳〵お見舞に行くことになりました。

「玉子さんが居ないで寂しいことね、何を持つて行つて上げませうね」

「玉子さんは、かつをぶしが好きたつたのね、時

々、あれを、おいしそうにかぢつたり、しやぶつたりして居たぢやありませんか」

「でもね、今度の御病氣は、何でも、かつをぶしをかぢり過ぎたとかいふことですよ、それでお腹をこはしてしまつたのでせうよ」

「さうですか、それでは困りますね、大根も食べないし、きやべつも、きらひの樣だし、あゝそれぢや、お魚がいゝでせう、柔かくおしいものをさがして來ませう」

「それがいゝ、それがいゝ、どれ　買つて來ませうか」

そこで、大きい犬は大きい籠に大きなお魚を一尾買つて入れました。小さい犬は小さな籠に小さないお魚を一尾買つて來れました。

二人はそれをさげてお家を出ました。

道に水たまりがありました。

大きい犬は、大きな音で、ジャブ〳〵〳〵

小さい犬は　小さな音で　チャブ〳〵、〳〵〳〵

とあるきました。

橋がありました。

大きい犬は　大きな音で　ドン〳〵〳〵〳〵

小さい犬は　小さな音で　トン〳〵〳〵〳〵

向ふから外の犬さんが來ました。

大きい犬は　大きな聲で　ワン〳〵〳〵〳〵

小さい犬は　小さな聲で　ワン〳〵〳〵〳〵

とおぢぎをしました。

玉子さんのお家につきました。

大きな犬は　大きく　ガラ〳〵〳〵〳〵

小さな犬は　小さく　カラ〳〵〳〵〳〵

と格子をあけました。

大きい犬は大きな聲で

「猫の玉子さん、御病氣はいかゞ、遊べないでつまりませんね、これをお見舞に上げませう、召し上つて下さいね、それではお大事に、早く癒つて

又御一緒にあそびせうね」
小さい犬は小さい聲でやつぱりさう云ひました。
玉子さんはほんとにうれしう御座いました。寂しかつたところですもの。それからすきなお魚もいたゞいたのですから。
「ありがたう〳〵早く癒つて又、遊んで下さいね
お猿さんにも何卒よろしく。」
大きい犬は大きな聲で
「ではお大事に、さよなら、カラ〳〵〳〵〳〵」
小さい犬は小さな聲で
「ではお大事に、さよなら、ガラ〳〵〳〵〳〵」
又歸りには、トン〳〵〳〵、ジャブ〳〵〳〵〳〵
と橋を渡つたり水溜りを歩いたりしてお家に歸りました。

ポコポコ

太郎さんのお母様はお買物があつてお出かけになるので太郎をおよびになつて。
「今日は少しお買物があるので出かけますからおうちでよく遊んでいらつしやいそれからお座敷におまつりしてある金の大黒様はさはると大變なことになりますから決していぢつてはいけませんよ。」
とよく云つてきかせてお出かけになりました
太郎さんはお母様がお留守になつてからはお庭で土いぢりや三輪車をのりまはしたりして遊んでおりましたがもうあきてしまつてお家の中の遊びをはじめました。
ふとお母様が決していぢつていけないとおしやつた金の大黒様のことを思ひ出しました。
お座敷へゆきますと金の大黒様はにこ〳〵笑つ

ていらつしやいます太郎さんはお母様がいけないとおしやつた大黒様をいぢつてみたくなりました大丈夫だらうと太郎さんは手の上に金の大黒様をのせました。

「別に何ともない大變なこともない。」

と太郎さんは安心してそのお大黒様をいぢつて遊んでおりました。

しばらくするとお母様は澤山お買物をさげてお歸りになりました、太郎さんは。

「お母様おかへりなさい」

と云ひましたがお母様にも外の人にも

「ポコポコ」

としかきこゑませんお母様は

「おや太郎さんどうしたの」

とききますとまた。

「ポコポコ　ポコポコ　ポコポコ」

と云ひます。

お母様は

「それではあのお座敷の大黒様をいぢつたのだらう。」

とさゝますとやつぱり

「ポコポコ　ポコポコ　ポコポコ　ポコポコ」

と云ひます。

そでれお母様はお座敷の大黒様のところへいつてみましたいつもおまつりしてあるところには大黒様はありません。

「太郎さん大黒様はどこへおいたの」

とお母様はきゝますと太郎は。

「ポコポコ　ポコポコ　ポコポコ　ポコポコ」

お母様は

「大黒様をもとのところへおまつりなさい」

とおつしやいますと太郎さんはお玩具の中から金の大黒様を出してお床の間におまつりしました。

お母様はこうしてもとのところへ大黒様をおま

つりすると御許し下さつて何でももとの樣にあなたがお話が出來ますよ」とおしやいました。
太郎さんは
「お母樣御めん下さい」
と云へました
「ほんとに私がわるかつた御めん下さい」
ともとの樣に云へました。

むぎ湯

よしこ

六月十五日、今日からお辨當のお湯が麥湯になつた。皆よろこんだ。「あたし、こんなお湯いやなの」とも子さんは氣味がわるそうに湯のみを私の處に持つて來た。さう〳〵とも子さんは體格檢査もいやがつてさせなかつた子だつけ。でも出來るだけのませて見ようと思つて、
「おいしいのよ、飲んでごらんなさいな」私は何度もさう云つた。小さいお友達も四五人お辨當をたべかけたまゝ、
「おいしいのよ、私ものんだわ」、「私も」「私も」とも子さんは當惑した顏をして、茶色の湯をながめて居た。この時くるりと、こつちを向いて、「ねえ」とひどく念を入れた上で。
「いやね、こんなお湯、私も大きらひよ」と何に對しても姉さんかぶの道子さんがとも子さんを救つた。
私はやかんを持つてさ湯をとりに行つた。

× × ×